

爐亦可也。其具與式本同上、置風爐者近世式也。

〔千家茶事不白齋聞書〕臺子之事

一眞ノ臺子大小大は風爐用、小は爐用。是は唐に而高官ノ膳也。昔越前永平寺トフケン和尚入唐之節持歸りたる臺子を、日本に而茶ノ湯之臺子に用、珠光讓請用、小に風爐置事なし。竹臺子、爐風呂に用、珠光、高麗臺子、爐に用、是者宗旦が遺初、好にてなし、只遣ひ初め候也。妻紅臺子、爐に用、宗旦好み、東福門院德川和子后江上ゲたる臺子にても可有之歟と説有り、如何様左も可有之事にて宗旦の遣ひ候ものとは不見、女院江上たるもの尤に候、貳本柱臺子、爐風爐に用、是は眞ノ臺子、大小の寸法也、天井に玉ぶち有之、右臺子、定り五通也、外に桑の臺子、爐に用ゆ、覺々齋は風爐も置候、

〔茶道筌蹄〕棚物之部

臺子眞大小 眞臺子、唐物うつし、千家所持は盛阿彌の作、大の方を當時寫し來る、小の方は利休時代より千家に傳來ありしが、中頃より傳はらざるよし、是を如心齋再興す、

及臺子 唐及第門の形なりといふ説もあれど、及第の節に作文を置く臺ならん歟、

竹臺子 珠光好、本哥ハ鴻池榮三郎所持也、ヤリ鋸柱は傘の柄竹を用ゆ、下の板疊付にハシミ、表流にハシミ、ミなし、

爪紅臺子 元來唐物寫し、青漆にてハケメあるとなきと、兩様あり、千家所持は刷毛目なし、紹鷗門人重宗甫所持なるゆへ、利休百會に宗甫棚とあるは、爪紅の事なり、但し、御屋宗甫といふ、堺の住人紹鷗門人なり、

高麗臺子 元來高麗物寫しなり、元伯より持來れるは、浪華天王寺屋五兵衛所持、元伯書付あり、

後一閑にてうつしあり、

桑臺子 原叟好、爪紅の通りを桑にて寫す、